

【上海市青浦任屯村上下水道改善計画】

被供与団体：上海市青浦県愛国衛生運動委員会

供与額：46,403 米ドル

契約署名日：平成3(1991)年12月9日

案件概要：

上海市の西約50kmにある任屯村では、1979年に敷設された浄水パイプが老朽化して漏水しており、排水施設も不十分なため、周辺の衛生環境の悪化に繋がっていた。本件は上下水道設備を取り替えるための資金を援助したもので、同村の村民800人及びその近郊の住民約2,000人の日々の飲料水確保が容易となり、生活環境も大いに改善された。

<関連写真>





【上海市松江県永福小学校再建計画】

被供与団体：上海市松江県教育局

供与金額：27,432 米ドル

契約署名日：平成3(1991)年11月11日

案件概要：

本件は、1991年8月7日の竜巻で被災し、教室の一部や外壁等が倒壊するなどした永福小学校の校舎を再建するもので、必要経費55万元のうち不足する15万元を供与した。翌1992年10月8日に落成式典が行われ、約400名の生徒が新しい校舎で勉学に励むことが可能となった。また、日中友好記念碑が設置され、桜の木が記念植樹された。

<関連写真>



【上海市江橋老人ホーム拡充計画】

被供与団体：上海江橋老人ホーム

供与額：34,421 米ドル

契約署名日：平成 3(1991)年 12 月 25 日

案件概要：

江橋老人ホームは、1991年に上海市で初の赤十字系統の老人ホームとして建設された。上海市の高齢者の増加に伴い、従来の規模では様々な要望に応えることが困難となったことから、翌年には入院棟を増設し医療設備を更新することになり、本件はその総工費 49 万円のうち約 20 万円を援助した。

同ホームは高齢者のターミナルケアに重点を置くなど特色ある経験を積み、現在、年間の入院者数は当初の 3 倍を超える 8,500 人に達している。その後、赤十字系統の同様の施設は上海市内だけでも 26 カ所に増加しているが、その経験は他のホームでも実践されている。

<関連写真>



【上海市上海駅地区清掃車供与計画】

被供与団体：上海駅地区環境衛生管理局

供与額：50,000 米ドル

契約署名日：平成 5(1993)年 12 月 6 日

案件概要：

毎日延べ約 60 万人が乗降する上海駅前広場では、主に人力により清掃活動が行われていたが、環境衛生管理所が吸塵式小型清掃車（英国製）1 台を購入することになり、その費用約 14 万ドルのうち 5 万ドルを援助した。

<関連写真>



【上海市に対する SARS 予防治療援助計画】

被供与団体：上海市衛生局

供与額：140,000 米ドル

契約署名日：平成 15(2003)年 5 月 21 日

案件概要：

中国では、2003 年 2 月頃から広東省や香港を中心に SARS が流行し始め、同年 4 月には上海でも 2 名の感染患者の存在が発表された。このため、少しでも疑わしい症状が発見されると、病院内の特定区に隔離し、観察するという措置が講じられたが、診断に際しては、感染が疑われる患者をなるべく移動させずに検査、治療を行うことが理想的であり、その機材が必要とされていた。

以上の背景の下、本件は上海市衛生局に対して移動式レントゲン機材計 4 台を無償贈与したものである。当該 4 台のレントゲン機材は、SARS の脅威が落ち着いた現在でも、便利かつ高性能な機材として、様々な用途で活用されている。

<関連写真>



移動式レントゲン機材

【上海市徐匯区星雨自閉症兒童トレーニングセンター環境整備計画】

被供与団体：上海市慈善基金会

供与額：80,840米ドル

契約署名日：平成17(2005)年11月28日

案件概要：

星雨自閉症兒童トレーニングセンターは、上海で初めて設立された民間の自閉症兒童訓

練施設であるが、自閉症に対する中国社会の認識が不足していることもあり、政府や社会各層からの支援が十分ではなく、資金面において困窮している状況にあった。

本件は、訓練環境を改善するとともに、通園バスを供与し、当該センターの発展を支援するものである。本件により、自閉症及び自閉症を抱える児童に対する社会的な理解が深まり、自閉症を巡る問題の改善も期待できる。

また、本件は、上海市で行われたプロジェクトで珍しい事例ということもあり、中国のみならず日本でもテレビや新聞で幅広く報道され、それらの報道を見た日本の人々と当該センターとの交流も活発になりつつある。

<関連写真>



センター正面



室外遊具

【上海市南匯桃源兒童家庭保育サービスセンター改修計画】

被供与団体：上海市慈善基金会

供与額：85,885 米ドル

契約署名日：平成 20(2008)年 2 月 1 日

案件概要：

当該センターは、1 階が脳麻痺児童のリハビリセンター、2 階が知的障害者及び身体障害者のリハビリセンターとなっていたが、以前使用していた建物は築後 20 年以上が経っており、老朽化が著しく、3 階の教室は使用できない状況で教室が不足していた。また、屋外に 1 つしかない一般仕様のトイレは、障害児の使用に適していないため、困難が生じていた。

上海市慈善基金会および上海市民政局からの補助金だけでは同センターの環境改善が困難なため、センター改築及び大型屋外遊具を配備したものである。本件の実施により、セ

ンター在籍中の 219 人の障害児に直接裨益する。

障害児童施設への援助を実施したことにより、障害者への関心を高め、間接的に広く周辺地域にも裨益している。

<関連写真>



改築された教室



室外遊具



ODA プレート
(平成 28 年 10 月撮影)



遊具に貼付された ODA シール
(平成 28 年 10 月撮影)

【上海市楊浦区社会福利院高齢者リハビリセンター器材整備計画】

被供与団体：上海市楊浦区社会福利院

供与額：98,992 米ドル

契約署名日：平成 23(2011)年 3 月 16 日

案件概要：

上海市楊浦区は、戸籍人口 108.6 万人のうち、60 歳以上の高齢者は 24.2 万人で区内総人口の 22.3%を占めており、高齢化が進展している。区内には 40 以上の養老施設があるが、既存施設では高齢者を収容しきれなくなっており、また、スタッフや器具を備えた専門的なリハビリサービスを提供できる施設はほとんどない。

楊浦区政府は、区内の高齢化対策として、2009 年に楊浦区社会福利院の拡充を支援することとし（総建築面積 19,794 m²、ベッド数 995 床）、本年使用開始される運びとなった。

しかしながら、同院では、毎年区政府からの補助金はすべて人件費などの運営費用に充てざるを得ず、リハビリ器材を整備する財政的余裕がないため、効果的なリハビリが実施できていない状況にある。

そのため、楊浦区社会福利院において、入居者 995 名及び地域の高齢者の健康の維持管理に資するため、リハビリ器材（超短波治療器 2 台、空気圧力治療器 3 台、低周波治療器 3 台、赤外線治療器 3 台）を整備するものである。

<関連写真>



活動室で体操している様子



将棋をしている様子



リハビリ室前の ODA プレート
(平成 28 年 10 月撮影)



リハビリ室
(平成 28 年 10 月撮影)